

役員名簿

理事・監事

(平成20年6月1日現在)

役職名	氏名	役職
理事長	持田 勲	工学博士 九州大学名誉教授 九州大学特任教授 (産学連携センター) (独) 科学技術振興機構研究成果活用プラザ福岡館長
副理事長	角 敬之	前福岡県環境部長
副理事長	松藤 泰典	工学博士 九州大学名誉教授 北九州市立大学副学長
常任理事	川野 田實夫	大分大学教育福祉科学部教授
常任理事	楠田 哲也	工学博士 北九州市立大学国際環境工学部教授 九州大学名誉教授 九州大学特任教授 (工学研究院)
常任理事	西村 正之	九州電力(株) 環境部長
常任理事	百島 則幸	理学博士 九州大学アイソトープ総合センター教授
理事	浅野 直人	福岡大学法学部教授
理事	小山 次朗	農学博士 鹿児島大学水産学部海洋資源環境教育研究センター長
理事	島岡 隆行	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授
理事	関根 雅彦	工学博士 山口大学大学院理工学研究科教授
理事	早瀬 隆司	工学博士 長崎大学環境科学部教授
理事	松岡 信明	理学博士 当協会事業本部長
理事	矢野 健二	当協会経営本部長
理事	矢幡 久	農学博士 九州大学熱帯農学研究センター教授
監事	千葉 兆	(株) 福岡銀行監査役
監事	林 謙治	(株) ふくおかフィナンシャルグループ常任監査役

評議員・顧問

役職名	氏名	役職
評議員	有川 節夫	理学博士 九州大学理事・副学長
評議員	池田 元輝	農学博士 九州大学名誉教授
評議員	内海 英雄	薬学博士 九州大学大学院薬学研究院教授
評議員	薛 孝夫	農学博士 九州大学大学院農学研究院准教授
評議員	中野 勝之	工学博士 福岡大学工学部教授
評議員	中村 明	九州電力(株) 原子力管理部長
評議員	西田 哲明	理学博士 近畿大学産業理工学部教授
評議員	野中 敬正	工学博士 熊本大学名誉教授
評議員	速水 洋	工学博士 九州大学大学院総合理工学研究院教授
評議員	樋口 壯太郎	工学博士 福岡大学工学部教授
評議員	二渡 了	工学博士 北九州市立大学国際環境工学部教授
評議員	宮島 徹	理学博士 佐賀大学理工学部教授
評議員	森本 廣	(財) 九州経済調査協会理事長
評議員	柳 哮	理学博士 九州大学名誉教授
顧問	竹下 健次郎	工学博士 九州大学名誉教授 元当協会副理事長
顧問	花嶋 正孝	工学博士 福岡大学名誉教授 福岡県リサイクル総合研究センター長

一 編集後記 一

昨年から今年にかけてエネルギー・環境・健康の視点からいろいろな事柄が話題になりました。世界的に見ますとオリンピックを控えた中国の環境問題が気になります。現在の中国の環境汚染は過去のわが国のそれをはるかに上回るのではないかとさえ思われます。問題は汚染が中国国内だけに止まらず、周辺諸国にも及んでいることが科学的に証明されつつあることでしょう。解決のために国際的な協力が必要であることは疑いありません。

一方、わが国では一昨 years が水俣病公式確認から 50 年の年でありました。水俣病に代表される公害型の環境問題はほぼ解決されていると思いますが、過去の負の遺産は社会問題としてまだ重いものがあります。このような経験をもとに環境立国を目指し、地球温暖化防止、資源循環、省エネルギー、国際貢献に努力するのが、わが国に求められる姿ではないでしょうか。

最近の身近な問題として最も鮮烈な印象として残るのはやはり食品の偽装であり、輸入食品の農薬汚染（混入）です。昨年の本誌の編集後記でも“コンプライアンス”と“企業の社会的責任（CSR）”について述べましたが、あらためて現代社会におけるこれらの欠落を感じました。問題解決のためには観念論だけでなく、検査体制などの技術的な対応がやはり欠かせないというのが実感です。

健康に係る問題としては“新型インフルエンザ”があります。“高病原性鳥インフルエンザ”がいつ人から人への感染能力を有する“新型インフルエンザ”に変異するのか。そして恐れられている“パンデミック（世界的大流行）”は起きるのか。もしかすると近未来の問題としては地球温暖化よりも重大かもしれません。

『環境管理第 37 号』では、たまたま偶然にも上に述べましたようなトピックスに関連した文章を先生方から頂戴することが出来ました。巻頭言では九州大学副学長の小寺山亘先生に、東アジアの環境問題解決のために日中韓を中心とした国際的な協力と国

内の産官学の連携が必要であることを述べていただきました。

論説では、まず国立水俣病総合研究センターの坂本峰至先生に水俣病の原因物質であるメチル水銀の人体影響、環境中での動態、世界の現状などについて、最新の知見に基づいて幅広く解説いただきました。つづいて福岡大学の樋口壯太郎先生に、資源循環を推進する上で問題となる塩類について数量的な評価と今後の対応策について詳細且つ具体的に述べていただきました。論説の最後は、福岡市保健環境研究所の樋脇弘先生に鳥インフルエンザを始めとするウイルス性感染症の現状について概説いただきました。

特別寄稿論文では、福岡市保健環境研究所の畑野和広先生に、液体クロマトグラフ/タンデム質量分析装置（LC/MS/MS）を用いる食品中有害物質の分析について、最新の技術開発の成果を述べていただきました。

当協会職員からは研究報告及び業務報告として、生物・生態系関連報告 2 編、環境省委託業務報告 1 編、佐賀シンクロトン光施設利用報告 1 編を記載させていただきました。

最後に、お忙しい中、本誌のためにご寄稿いただきました先生方と職員の皆様に心から感謝申し上げます。

（編集担当：松岡）

財団法人 九州環境管理協会 会報 「環境管理」第 37 号

平成 20 年 6 月 1 日発行

発行者 持田 勲

発行所 (財)九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1

TEL (092) 662-0410(代)

FAX (092) 662-0411

印刷所 (有)一正堂